

インターン生から見た「地域の魅力発信セミナー」

平成25年8月

津田塾大学3年 成瀬実穂

1. はじめに

この度、外務省大臣官房総務課地方連携推進室にてインターンシップをさせて頂きました。津田塾大学学芸学部英文学科3年の成瀬実穂と申します。私は熊本県出身で、大学入学を契機に上京して参りました。大学1年生の夏休みに熊本に帰省した際に、復元された熊本城の本丸御殿や、城下の町並みを模して造られた施設である城彩苑を訪れ、自分がそれまで当たり前のように住んできた熊本県に新たな魅力を感じ、「もっと熊本県の魅力を日本、ひいては海外に発信していきたい。」と感じるようになりました。そこで、地方と海外を繋ぐ役割を果たされている地方連携推進室でインターンシップをさせて頂くことで、地方の国際交流の実態を知り、熊本県の魅力を発信するための効果的な方法を学ぶことができればと思い、応募致しました。

2. 「地域の魅力発信セミナー」の開催とその準備

インターンとしての実習期間中に、地方連携推進室が運営するイベントのひとつである「第13回地域の魅力発信セミナー」が開催されました。このセミナーは、毎回国内のいくつかの地方自治体が諸外国の外交団等を対象にプレゼンテーションを行うとともに、ブースを出展し、特産品の試食・試飲、伝統工芸品の展示等を行うことにより、それぞれの地域の魅力を発信しようというものです。今回、このセミナーの運営のお手伝いをさせて頂きました。事前打ち合わせから始まり、前日には会場設営を行いました。机や椅子を並べ、47都道府県の紹介パンフレットを置いたり、外務省内に会場までの看板を設置したりしました。当日には、参加する4県(福島県、茨城県、千葉県、徳島県)のパンフレットを来場者に配付し、外交団の方々の受付を担当しました。また、実際に各県や外交団の方々にインタビューをさせて頂きました。

3. 各県によるプレゼンテーション及び外交団との交流会

セミナーは、各県によるプレゼンテーションから始まりました。それぞれの県が、県の魅力を最大限に伝えようと意気込んでいるのがよくわかり、色鮮やかな写真が次々とスライドに映し出されると、目が釘付けになりました。とくに、阿波踊りで有名な徳島県は、浴衣を着たプレゼンターが原稿を一切見ずにプレゼンテーションを行い、最後に阿波踊りのポーズをされたのがとても印象的で、会場は笑いと拍手に包まれました。それぞれの県が、立地・特産品・祭りなど多くの切り口からプレゼンテーションを行っており、多角的視点から自分の地域を捉えていることがわかりました。プレゼンテーションが終わると、外交団の方々は、各県が設置したブースで特産品の試食や試飲をされたり、県の方に直接質問をされたりしていました。

4. インタビュー体験とその結果

交流会が行われている間、私は参加された各県や外交団の方々にインタビューをさせて頂きました。インタビューの内容は、「セミナーへの参加回数」「セミナー参加の理由」「外交団の方々の反応や手応えはどうか」「セミナーに参加することで、各県の印象が変わったか」などでした。

各県の参加の理由としては、外交団への直接的なアピールのためという意見が多くありました。例えば、福島県や茨城県は、今もなお原発事故の風評被害に遭っており、農産物の輸出に規制を受けている状況にあるそうです。そこで実際に、特産品の福島県産の桃や茨城県産の旭メロンを試食してもらうことで、その美味しさや安全性を直接訴えたいとおっしゃっていました。徳島県は、海外で地方のことを宣伝して、いきなり海外に住む外国人に地方にまで来てもらうのは難しい。そこで、まずは外交団にその魅力をわかってもらい、それぞれの国の人々に伝えてもらいたいと思っておられるとのことでした。千葉県は、外交団の反応として、多くの方が積極的に特産品を試食して興味を持ってくれていると感じ、アピールの必要性を感じられたそうです。

一方、参加された外交団の方々は、実際にその地域に住んでいる方が、目の前で自分の地域について話してくれることに魅力を感じるという理由で参加された方が多く、中には日本の様々な場所を知って、より多くの日本文化を探っていきたいという好奇心旺盛な方もいらっしゃいました。また、プレゼンテーションによりその地域の魅力を理解できただけでなく、実際に多くの展示品を見たり、特産品を試食・試飲したりすることによって、よりその地域を身近に感じられたという方もいらっしゃいました。

5. おわりに

今回、この「地域の魅力発信セミナー」に関わらせて頂き、多くのことを知り、また学ぶことができました。セミナーが始まるまでの準備段階では、省内を走り回って備品を集めたり、各県から届く重い荷物を台車で運んだり、外務省の華やかなイメージからは想像もつかないほど体力を使いましたが、大変よい経験となりました。また、外交団の方に興味を持ってもらうために、省員の方々が悩まれながらも、色々なアイデアを出され、それを直ちに実行に移されるのを見て、いかに真剣にこのセミナーについて考えておられるのかを身にしみて感じました。ところで、インタビュー体験を通して強く感じましたのは、「直接的な交流の大切さ」です。現在は、ネットや SNS 等の発達により、誰もが様々な情報を発信することが出来ますが、今回のセミナーのような、多くの外交団の方々に、直接自分の口で、また対話を通して、農産物の安全性や地域の魅力を訴える機会はめったにないのではないかと感じました。きっと外交団の方々にも各県の魅力が伝わったものと思います。「百聞は一見に如かず」と申しますが、私自身も、このセミナーに参加し、プレゼンテーションをお聞きし、各県の方々とお話を

することによって、各県へのイメージが大きく変わりましたし、地方の果てしない可能性を感じました。「直接的交流」を通じて、多くの地方や地域が繁栄していくことを願っています。また、私自身も、この経験を何らかの形で自分の成長に繋げなければならないと思っております。最後になりましたが、地方連携推進室の皆様方、貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

